

令和2年度事務事業評価シート（令和元年度決算）

事業コード	810 - 3 -	作成者氏名	山本 康平	連絡先	0833-72-1543
事務事業名	道路整備事業	担当課	道路河川課		
予算費目	一般会計	款 8	土木費	項 2	道路橋りょう費
				目 1	道路新設改良費
第2次 総合計画	基本目標	コード	4	項目	自然と都市が潤いゆたかに調和したまち 快適に暮らすために 道路網の整備
	重点目標		2		
	政策		2		
					第2次総合計画 158頁

対象	市道等の利用者、市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	舗装改修や側溝整備、補修などを行い、機能の維持向上を図る。
事務事業の概要	市内市道等において安全性、利便性の向上を図るため、舗装改修や側溝整備などを行い、機能の維持向上を推進して行く。		

事務事業の成果指標	単位	30年度実績	元年度			令和4年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	30年度実績	元年度実績	2年度目標		
		事業費	単位	30年度決算	元年度決算	2年度予算		
1	道路整備工事	工事件数	件	9	16	21	A	◎
		事業費	千円	86,445	64,795	165,100		
2	測量設計等委託業務	委託件数	件	17	21	15	A	○
		事業費	千円	28,698	48,169	36,500		
3	用地買収業務	用地取得件数	件	1	0	0	—	
		事業費	千円	149	0	0		
4	補償補填及び賠償業務	補償件数	件	0	0	1	—	
		事業費	千円	0	0	10,000		
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				115,292	112,964	211,600		
職員人件費等		業務量（人工数）			4.60人	【業務評価】		
		人件費（千円） B			33,230	A：達成済 目標水準プラス見直し		
人件費を含む総事業費（千円） A+B					146,194	B：実施手法の要改善		
財源内訳		国庫支出金			41,850	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し		
		県支出金						
		地方債			20,600	D：業務廃止・完了の意向		
		その他				E：元年度を以て廃止・終了		
		一般財源			83,744	F：一時的に実施無し		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
近年、全国的に社会資本の老朽化が著しくなっており、本市においても同様な状況が多く見受けられる。また、事故等も発生している。このことから、適切な改修を実施し、安心・安全の確保を図って行くため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 安心・安全なまちづくりを目指す中で、本事業は必要不可欠と考える。また、限られた予算での実施を行っているため成果指標等の設定は困難とも考える。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 道路機能の維持や安全確保が必要なことから、業務の構成は適切であると判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 事業については市が実施主体となり進めていく必要があるが、財政面においては国の補助率の嵩上げや採択基準の緩和等が必要であると考え。また、改修等を進めるためには市民の協力が必須である。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	酒向 教夫	最終評価責任者 (部長名)	吉本 英夫
--------------------	-------	------------------	-------

令和2年度事務事業評価シート（令和元年度決算）

事業コード	810 - 6 -	作成者氏名	山本 康平	連絡先	0833-72-1543
事務事業名	河川・水路整備事業		担当課	道路河川課	
予算費目	一般会計	款 8	土木費	項 3	河川費
第2次総合計画	基本目標	コード	項目	体系外	
	重点目標				
政策				目 1	河川費
					第2次総合計画 頁

対象	河川の周辺に住む住民や河川の利用者	意図 (対象をどのようにしたいのか)	河川・水路の安全性を図るため整備を行う。
事務事業の概要	近年、河川施設においても老朽化が著しいうえに、局地的な集中豪雨により、氾濫等の危険性が高くなっているため、護岸の整備を行う。		

事務事業の成果指標	単位	30年度実績	元年度			令和4年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名	単位	30年度実績	元年度実績	2年度目標		
		事業費	単位	30年度決算	元年度決算	2年度予算		
1	河川・水路整備工事	工事件数	件	1	1	1	A	◎
		事業費	千円	14,325	1,727	9,000		
2	測量設計等委託業務	委託件数	件	0	0	0	—	
		事業費	千円	0	0	0		
3	用地買収業務	用地取得件数	件	0	0	0	—	
		事業費	千円	0	0	0		
4	補償補填及び賠償業務	補償件数	件	0	0	0	—	
		事業費	千円	0	0	0		
5		事業費	千円					
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円） A				14,325	1,727	9,000		
職員人件費等		業務量（人工数）			0.60人		【業務評価】 A：達成済 目標準プラス見直し B：実施手法の要改善 C：目標準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：元年度を以て廃止・終了 —：一時的に実施無し	
		人件費（千円） B			4,334			
人件費を含む総事業費（千円） A + B					6,061			
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他						
		一般財源			6,061			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
安心・安全で「やさしい」まちづくりを推進していくためには、老朽化した河川施設の整備等を行う必要があるため。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 安心・安全なまちづくりを目指す中で、本事業は必要不可欠と考える。また、限られた予算の中で事業を実施していることから、成果指標等の設定は困難とも考える。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 雨水を速やかに流下できていることにより、業務の構成は有効であると判断できる。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 事業については市が実施主体となり進めていく必要があるが、財政面においては国の補助率の嵩上げや採択基準の緩和等が必要であると考え。また、河川整備等を進めるには、地域の方々の協力なくしては成り立たないことから、地域全体で整備等に向けた取組みを行う必要がある。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	酒向 教夫	最終評価責任者 (部長名)	吉本 英夫
--------------------	-------	------------------	-------

令和2年度事務事業評価シート（令和元年度決算）

事業コード	840 - 3 -	作成者氏名	西村 知通	連絡先	0833-72-1574
事務事業名	都市計画事務費	担当課	都市政策課		
予算費目	一般会計	款 8	土木費	項 5	都市計画費
		目 1	都市計画総務費		
第2次総合計画	基本目標	コード	4	項目	自然と都市が潤いゆたかに調和したまち 快適に暮らすために 時代にあった都市づくり
	重点目標		2		
	政策		1		
					第2次総合計画 156頁

対象	都市計画、景観計画 市民	意図 (対象をどのように したいのか)	適切な計画を定めることなどにより、都市の健全な発展と公共の福祉の増進に寄与する。
事務事業の概要	都市計画法や建築基準法、景観法等の法令に則り、計画等の策定・決定を進めるとともに、計画等に基づく都市の整備を推進する。また、法令等に基づき、適正な許認可等を行う。		

事務事業の成果指標	単位	30年度実績	元年度			令和4年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
「まちなみ・景観の整備」に関する満足度	%	32.5	32.7	40.0	81.8%	40.0	
「快適な居住空間の整備」に関する満足度	%	33.1	36.4	42.0	86.7%	42.0	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)		活動指標・事業費(千円)					業務評価	重点業務	
			指標名 事業費	単位	30年度実績 30年度決算	元年度実績 元年度決算	2年度目標 2年度予算			
1	都市計画決定・変更業務	●	都市計画審議会の開催回数 事業費	回 千円	2 235	0 71	3 501	A		
2	立地適正化計画策定業務	●	関係機関協議・説明会回数 事業費	回 千円	7 6,906	2 2,964	2 5,129	B	○	
3	光駅周辺地区拠点整備基本構想策定業務	●	協議会の開催回数 事業費	回 千円	4 4,817	—	—			
4	光駅拠点整備基本計画策定業務	●	協議会の開催回数 事業費	回 千円	— —	3 4,086	2 6,946	D	◎	
5	長期未着手都市計画道路の見直し業務	●	関係機関協議・説明会回数 事業費	回 千円	1 73	1 71	2 72	B		
6	周南東都市計画区域の土地利用規制検討業務	●	庁内協議回数 事業費	回 千円	0 73	0 71	1 72	A		
7	都市計画総括図等販売業務		販売額 事業費	千円 千円	62 72	39 70	— 71	A		
8	都市計画照会対応業務		事業費	千円	72	70	71	A		
9	周南道路建設促進業務（負担金）		周南道路建設促進期成同盟会会議等開催回数 事業費	回 千円	4 172	5 171	4 172	A		
10	都市計画協会負担金		事業費	千円	123	123	123	A		
11	都市再生整備計画総括業務		交付金の額 事業費	百万円 千円	142 72	0 70	0 71	A		
12	景観形成推進業務	●	啓発活動等回数 事業費	回 千円	0 73	1 115	1 123	B		
13	開発指導業務		申請件数 事業費	件 千円	10 72	7 71	— 72	A	○	
14	建築確認業務		建築確認申請件数 事業費	件 千円	32 72	26 71	— 72	A		
15	屋外広告物業務		設置許可申請件数 事業費	件 千円	38 72	43 71	— 72	A		
直接事業費の合計(千円) A						12,904	8,095	13,567		
職員人件費等		業務量(人工数)				5.30人	【業務評価】			
		人件費(千円) B				38,287	A: 達成済 目標水準プラス見直し B: 実施手法の要改善			
人件費を含む総事業費(千円) A+B							46,382	C: 目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D: 業務廃止・完了の意向 E: 30年度を以て廃止・終了 —: 一時的に実施無し		
財源内訳		国庫支出金				1,425				
		県支出金				3,893				
		地方債								
		その他				457				
		一般財源				0	40,607			

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
光駅とその周辺の整備は、未来創生プロジェクトの一つであり、特に、バリアフリー化については、喫緊の課題として、市民や利用者からも非常に強く求められているため、最重点化業務とした。また、立地適正化計画については、中・長期的な視点から市民生活に影響を及ぼす計画であるため、国の動向等も踏まえつつ、十分な検討・整理を要する業務であるため、さらに、開発指導業務は、市民生活や事業活動の重要なステージに関与する業務であり、迅速かつ適正な業務の遂行が求められるため、重点化業務とした。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。 都市計画は成果が表れるまでに時間がかかるものであり、将来の成果に向けて日々種をまいていくものである。成果指標の目標には達していないものの、昨年度から若干の進捗が見られ、目指すべき都市づくりに向けて少しずつ進捗が図られており、今後も、着実に取組みを進めていく必要があると考える。 また、適正な許認可等を行うことにより、美しいまちなみや景観、快適な居住空間の維持・向上に寄与しており、引き続き、適正な事務遂行に努める。
業務構成の有効性	事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。 目指すべき都市の実現に向けて、計画等の策定・決定から具体的な許認可等までの一連の業務で構成されており、現状妥当な業務構成になっていると考える。一方で、都市計画全般に関する業務を主としているため、ある程度エリアを限定した局所的な業務については、その業務の進行段階に応じて適切な事務事業の新設を検討する必要がある。
実施主体の妥当性	事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。 都市づくりは行政だけでできるものではないため、実施段階はもとより計画段階から多様な主体の参画のもとで取り組んでおり、市が一定の主導をしつつも、適切な役割分担のもとで事務事業の着実な遂行が図られていると考える。

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 （課長名）	松並 宏昌	最終評価責任者 （部長名）	吉本 英夫
--------------------	-------	------------------	-------

令和2年度事務事業評価シート（令和元年度決算）

事業コード	840 - 6 -	作成者氏名	森山 知博	連絡先	0833-72-1582
事務事業名	緑化推進事業	担当課	都市政策課		
予算費目	一般会計	款 8	土木費	項 5	都市計画費
				目 4	公園緑地費
第2次総合計画	基本目標 重点目標 政策	コード 4 2 5	項目 4 5	自然と都市が潤いゆたかに調和したまち 快適に暮らすために 公園の整備と緑化の推進	
					第2次総合計画 164頁

対象	市、市民	意図 (対象をどのようにしたいのか)	市民の緑化活動を推進し、花と緑に囲まれたまちを創る。
事務事業の概要	市民が花と緑に触れ合う機会を設け、緑化活動の普及・促進を図り、もって緑地の整備促進を図る。		

事務事業の成果指標	単位	30年度実績	元年度			令和4年度目標	類似団体等の実績値等
			実績	目標	達成度		
花壇コンクール参加団体数	団体	67	62	80	77.5%	80	
誕生記念植樹参加人数	人	44	56	75	74.7%	75	

◆事務事業（予算事業）を構成する業務◆

番号	業務の名称 (●=行動計画対象業務)	活動指標・事業費（千円）					業務評価	重点業務
		指標名 事業費	単位	30年度実績 30年度決算	元年度実績 元年度決算	2年度目標 2年度予算		
1	新入学児童記念樹配布業務	配布本数	本	410	424	450	A	○
		事業費	千円	335	366	369		
2	花壇コンクール	配布回数	回	1	1	1	A	◎
		事業費	千円	2,274	2,174	2,569		
3	誕生記念植樹	植栽本数	本	2	2	2	A	○
		事業費	千円	946	974	1,079		
4	緑化用資材支給業務	配布箇所	箇所	1	1	1	A	
		事業費	千円	106	477	154		
5	国立公園関係都市協議会負担金	事業費	千円	20	20	20	A	
6		事業費	千円					
7		事業費	千円					
8		事業費	千円					
9		事業費	千円					
10		事業費	千円					
11		事業費	千円					
12		事業費	千円					
13		事業費	千円					
14		事業費	千円					
15		事業費	千円					
直接事業費の合計（千円）				A	3,681	4,011	4,191	
職員人件費等		業務量（人工数）			0.75人	【業務評価】		
		人件費（千円）		B	5,068	A：達成済 目標水準プラス見直し B：実施手法の要改善		
人件費を含む総事業費（千円）				A+B		9,079	C：目標水準マイナス見直し 実施手法の見直し D：業務廃止・完了の意向 E：元年度を以て廃止・終了 -：一時的に実施無し	
財源内訳		国庫支出金						
		県支出金						
		地方債						
		その他				59		
		一般財源				9,020		

「重点業務」欄で、最重点化、重点化する業務として選択した理由
花壇コンクールは、自治会や企業、幼稚園や学校など市民参加による花と緑のまちづくりが促進されるとともに、公園や花壇などの緑化に資することから、最も重点的に取り組むこととする。また、新入学児童記念樹配布や誕生記念植樹は、子どもの入学や誕生を祝うとともに、市の花である「ウメ」の普及及び市民による公園緑地の環境整備に繋がることから重点的に取り組むこととする。

◆事務事業の評価◆

評価の視点	事務事業を実施した結果をそれぞれの視点で評価する。
事務事業の成果	<p>成果指標を踏まえ、達成度や事業の効果を分析する。</p> <p>市民参加による花と緑のまちづくりを推進する花壇コンクールや誕生記念植樹は、多くの自治会や企業、幼稚園や学校、あるいは、子どもとその家族の参加が必要であり重要であるため、成果指標として設定した。令和元年度の花壇コンクールは、62団体の参加があり、市民が潤いと安らぎのある美しい花壇造りを楽しむことができた。また、誕生記念植樹では、56名の子どもとその家族が参加し、2本の梅の植樹とガザニアクイーンの植栽を行い、花と緑に親しんだ。</p>
業務構成の有効性	<p>事務事業の意図を達成するための業務の構成として適切かどうかを分析する。</p> <p>多くの市民の参加と協力が得られる花壇コンクールや誕生記念植樹は、市民参加による花いっぱい運動を推進し、花と緑のやすらぎあるまちづくりを実現する事業として適切と考える。</p>
実施主体の妥当性	<p>事務事業に対する市の役割、関係団体等（企業、地域団体、NPO等）の役割分担が適切かどうか分析する。</p> <p>事業全体は市が実施主体として実施しているが、花の植栽や花壇等の管理は、市民の協力により実施しており、市と市民の役割分担は適切であると考ええる。</p>

◇担当課における改善等の案◇（※以下、意思形成過程につき非公開）

事務事業執行責任者 (課長名)	松並 宏昌	最終評価責任者 (部長名)	吉本 英夫
--------------------	-------	------------------	-------